OLIVEPRESS

No.27
2018 年 12 月 8 日発行

（エルサルバドルみつばち保育所　2018 年）

I Sant'Innocenti（見捨てられた児童の会）の活動

マルコ・ロマーニ（ローマ支部責任者）

オリーブジャパンは世界のカウンターパートと共に、同じ目的のもと、中米の貧困に苦しむ若者への教育支援を行っています。その中心である I Sant'Innocenti の責任者、マルコ・ロマーニの講演記録です。
（2018 年 1 月 6 日）

私は I Sant'Innocenti（イサンティノチェンティ／ISI／見捨てられた児童の会）という非営利団体の責任者の 1 人です。ISI は主に中米の子どもたちのために働いていますが、中米に限らず、例えばイタリアの大地震時にも緊急支援活動を行っています。この NGO のプロジェクトをいくつか紹介させていただきます。その前に、なぜ私がこの仕事に携わるようになったか、なぜ若い時にこの活動に興味を持ったのかを説明したいと思います。

私は子どもの頃、ISI という協会を作ったある素晴らしい人たちに出会いました。出会いはとても大事な出来事です。この出会いが、今日まで私の人生と共に歩んでくれていることを分かりやすく説明したいのですが、非常に難しい仕事です。この出会った友人と共に、良い時も悪い時も（人生は笑えることばかりではありませんが）、私は人生を歩むようになりました。

ISI がイタリアといくつかの国で生まれたのは、ある先生がその後ろにいてくださったからです。それはジョヴァンニ・リヴァという先生でした。教皇ヨハネ・パウロⅡ世は、ジョヴァンニ・リヴァ先生の「兄弟愛に基づく平和」への真面目な運動を認めてくださいました。ですから、1999 年の教皇認可の下で、この活動（ISI）がすすめられることになりました。ジョヴァンニ先生の著作は 2 冊あり、日本語で出版されています。ジョヴァンニ先生の思想はその本で知ることができます。

この先生との出会いは、私の人生にとって決定的なものでした。先生の生きる姿勢を見ると、人生の役目はもっと良いものではないだろうか、もっと尊い目的があるのではないか、と考えるようになりました。この様に人生を考え始めたのは先生のおかげだと思います。私はまだ子どもでしたが、ジョヴァンニ先生は本当に心から人を愛する人でした。愛すということは、感情的なものではありません。彼にとって愛することは行いでした。よって、彼からたくさんの援助活動が生まれたのは、「愛は活発である」証しといえます。私たちは「支援をする時、非営利団体を始める時に、皆を同じ視線で見なければならない」ということです。これはジョヴァンニ先生から学んだことです。つまり、上から下に対して何かをするのではなく「本当の友だちになって共に歩む」、これを私たちは先生から学びました。援助活動は困っている人たちを助けるというイメージですが、実際に友だちになれば良いことも分かち合えるようになります。ですから嬉しいことも共通の喜びになります。私たちはそのような

ある国に少しずつ移り住むようになりました。そしてその国の人々に出会い、その人たちの問題に私たちも直面します。そこでその問題の解決方法を一緒に探ります。漠然と全ての人を大切にしたいと思っても、普通は何も始まりません。自分のすぐ側にいる人をまず大事にしなければならないと思います。私たちはこのようなロジックで援助活動を行っています。それでは写真を紹介しながらお話を進めましょう。

下の写真は ISI を創設した人たちです。私がまだ 7 歳か 8 歳の頃です。私も写っています。側に 20 代のヴォルペ先生と、その後ろにヴォルペ先生の弟がいます。そしてこの方がジョヴァンニ・リヴァ先生です（2 列目左から二人目）。この集合写真をお見せしているのは、活動を進めるには必ず友人が必要であることを見ていただきたいからです。上に掲げているのは、いつもジョヴァンニ先生が私たちに繰り返していた「本当の友人とは、相手の問題を必ず分かち合い、助け合う」という言葉です。32 年前の写真です。友情が本物であるなら存続的であるはずです。

1 番下は昨年の写真です。その中には 32 年前の写真に写っている人たちもいます。ですから本物なら続く、ということです。この写真の人たちは皆、ISI 支援者です。下のロゴは私たちのシンボルマークです。ISI は子どもを現す言葉ですが、子どもの家族に対しても支援協力を行っています。 ONLUS とはイタリア語で NPO (特定非営利活動法人)の意味です。ISI のプロジェクトは主にメキシコ、ホンジュラス、グアテマラ、エルサルバドルで行われています。

（向かって左がマルコ・ロマーニ氏　エルサルバドル地震支援活動にて）

皆さん覚えていらっしゃいますか。エルサルバドルで大きな地震（2001 年 M7.6）が起きた年でした。その時私は 19 歳か 20 歳で、ボランティアスタッフとしてエルサルバドルに渡りました。T シャツに ISI のマークがあります。しばらくして子どもたちにこの T シャツが全て配られました。皆欲しがったのですね。当時、日本人の H さんはエルサルバドルに滞在中でした。地震直後に日本から 2 人の友人が、またカナダから留学中の K さんと友人のカナダ人が支援のために駆けつけてくれました。この地震で山の斜面が崩壊し、多くの人々が亡くなり、家々も流され押し潰されてしまいました。多くの子どもは親も住む家も失いました。当時 10 ヶ所の避難所があり、その 1 つで子どもたちへのケアを行っていました。2001 年当時から、子どもたちのために存続的な活動をしていこうと、あるプロジェクトが生まれました。（次号へ続く）

ISI
I SANT'INNOCENTI onlus

現地の NGO づくり－将来と展望 その 6

ジョヴァンニ・リヴァ

（「人間性」と「信頼」が大切なポイント。自分のことを正直に見せ、相手との一致を目指しながら、共に真面目で嘘なく働く環境をつくることである。どんな絶望的な状況の前でも何度も頑張ろうと再出発を試みるという人間性を深めることができる。）前号より

Q：現在(1994 年当時)は中南米でどのような活動が行われているか教えてください。
A：現在、始めようとしている活動は、グアテマラの“コマドール・ポポラーレ”という非常に貧しい所での食堂建設です。その食堂で母親たちは料理を作って子どもたちを養います。また、食べさせることだけではなく、色々な講座を企画して勉強させる場としても考えられています。食堂を兼ねた色々な活動ができる多目的センターとして考えています。

もう一つは、非常に貧しい国であるホンジュラスのプロジェクトです。そこに未婚の母のための家があります。ボランティアたちは、母親たちがまず出産する前にきちんとした病院で診察を受けるように援助します。そして出産後、しばらく静養するための施設があり、将来は保育園の増設を考えています。母親たちが子どもたちを預けて仕事に行けるようになるためです。しかしこの施設に彼女たちを永久的に受入れることが目的ではありません。そこにいる間に何か仕事を覚え、仕事先を見つけてその施設を母子共に出られるように援助するための活動です。

メキシコでは３か所でプロジェクトが行われました。コアッツァコアルコスで学校教員へのトレーニングが行われ、その学校にコンピューターを導入し、図書館を設置しました。同じようにヴィッレルモーサ、メキシコシティでも学校に対して援助（教員養成の講習会）が行われました。現在、行われているプロジェクトは、イクテ(ICTE)技術専科短期大学を設立し、インテリアデザインを中心として学科の専門教育の場を提供しています。近年、メキシコではインテリアデザインへの関心が深まっていて、そのような学校の開設に至りました。９５年の秋からは東洋文化学科日本語コースが開設される予定です。このほかにも新たに２学科（電子印刷と観光に関する学部の開設）が計画されています。そして、学校を経済的に自立させるために３つの事務所を開きました。一つはインテリアデザイン事務所で、技術を学んだ若者たちは客の注文にあわせて、家の改築、家具などの修理作業を行います。このほかに観光案内所を開き、始まったばかりですが印刷所も開きました。この３つの活動のおかげで学校は経済的にも少し助かり、同時に学校を卒業した生徒たちがそこで働くこともできます。また、その事務所を通して企業と連絡をとり、学校の責任者たちも卒業生の働き口を探し、若者たちを紹介したり彼らの仕事について考えます。また地方から通う女子生徒たちの下宿先などの紹介も行います。ですから一つの活動の周りに色々な活動の輪が広がります。そのようにすると、人々にも仕事が与えられ、様々な人間関係が始まります。

ヴェネズエラでは３００人の子供たちが通う農業学校を援助しています。そこでは農業が中心となっていますが、まだ旧式の方法で作業をしているので道具を送ったり、新技術を教えたりしています。

エルサルバドルでは、ストリートチルドレンのための援助教育活動が行われています。彼らたちは道で生活することを好んでいるので施設へ入れることは出来ません。ですから、開かれた家（孤児救援教育センター）を考えました。彼女らは自由にそこへ通い、食事をしたり、シャワーを浴びたり、洗濯、休憩などをして再び自分たちの戻りたいところへ帰ります。しかし、少しずつ忠実的に訪れる子ども（子どもと呼んでも母親になっている子もいるので若い女性と言ったほうがよいのですが）たちと交流が始まると、安定した生活を提案します。そして現在は一名がボランティアのイタリア人家族と共に住むことになりました。将来、私たちは子どもの家「開かれた村」を考えています、その村に閉じこもってしまうという意味ではなく、子どもたちが勉強したり、工場で働いたり、ハンディクラフト（手芸品）で生計を立てながら暮らせる村の計画です。

フィリピンでもエルサルバドルに似た内容のプロジェクトが近いうちに始まります。

私たちは現在資金を集めていますが、将来実施したいプロジェクトはこの他に４つあります。キューバに映画の制作所を作ることを考えています。ハンガリーには老人病院の建設、ボリビアでは蜂の養殖、ペルーではアンデス山脈で木工作業所の建設を考えています。

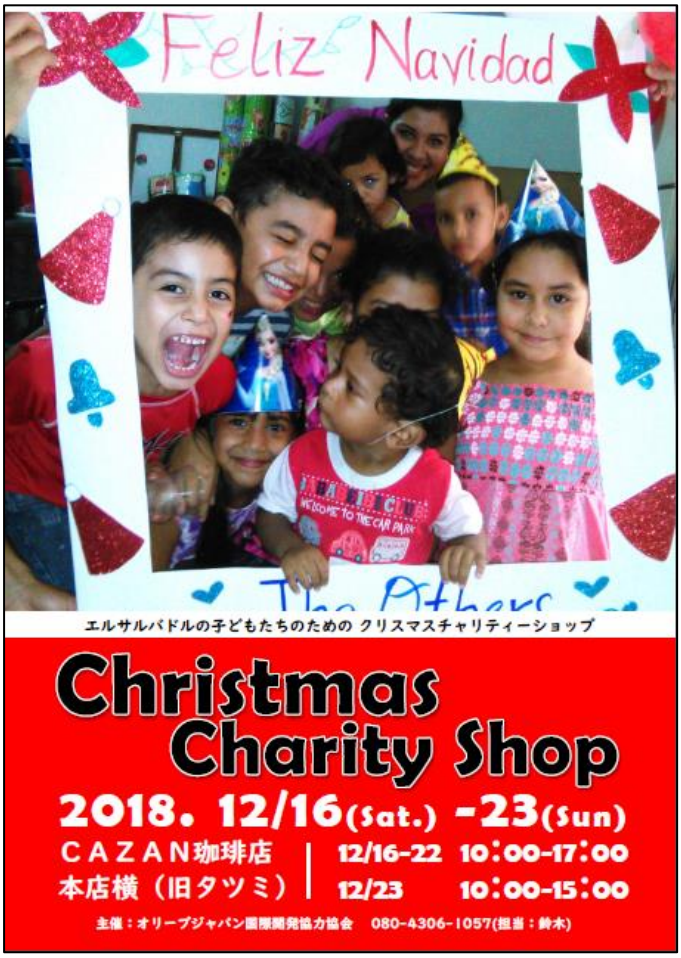
ジョヴァンニ・リヴァは「友情こそが真の平和を作る」という理念のもと、祈り、教育、働きについて絶えず若者に教えました。オリーブジャパンと各国のカウンターパートの活動はその教えを礎としています。

INFORMATION

12/16（日）-23（土）
クリスマス
チャリティーショップ
物品募集中

中米の貧しい子どもと若者のためのチャリティーショップを定期的に開催しています。
ご家庭にある、日用品、衣類、靴、アクセサリー、バッグ、雑貨などのご提供をよろしくお願いいたしします。
皆さまのご協力をお待ちしております。

連絡先 080-4306-1057(鈴木)



12/15（土）ウィルあいち
ONEWAY 映画上映会
『沖縄スパイ戦史』
監督：三上知恵×大矢英代

オリーブジャパン国際開発協力協会はカウンターパートの ONEWAY 国際平和文化協会とともに『沖縄スパイ戦史』を応援しています。

会員募集

オリーブジャパンの活動に賛同していただける
会員の方を随時募集しています

・賛助会員（一ヶ月一口 10,000 円）
・正会員 （一ヶ月一口 5,000 円）
・協力会員（一ヶ月一口 2,000 円）
・参加会員（一ヶ月一口 1,000 円）
・同調会員（一ヶ月一口 500 円）

振替口座番号
００８９０－１－２４５８２

会員の皆様には、会報「オリーブプレス」と
講演会、バザー等のご案内を
優先的にさせていただきます。

郵便振込用紙に必要事項と会員の種類、
納入方法（月払い／年一括）をご記入の上、
会費を納入ください。

オリーブプレス Vol.27 2018 年 12 月発行
オリーブジャパン国際開発協力協会 olivejapan80@hotmail.com http://olivejapan.sakura.ne.jp/
編責 ：オリーブプレス編集部